



三春中学校だより

第16号

発行日 平成30年 6月28日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【それぞれに目標をもって！～9校の高校の校長先生、教頭先生をお迎えし高校説明会開催～】

6月25日(月)の3・4校時、体育館と校内各所を使用し、平成30年度の県立高校説明会を実施しました。現行入試制度としては最後の入試形態となります。

この時期、進路学習の一環として、子どもたちが、自身の進路に関して具体的な目標をもてるようにすると、この時期の進路希望の明確化による長期休業等の有効活用への意欲づけのため、高校説明会を実施する中学校が多くあり、お出でいただいた高校の校長先生の中には、「6校が同じ日に行われる日もあります。」という先生もいらっしゃいました。

この日は、地元の高校である田村高校の廣瀬校長先生から全体会でお話をうかがった後、前半、後半に分け、前半4高校、後半4高校から、それぞれの高校の特長や入学してほしい生徒像などについて説明をいただきました。

“夏を制するものは受験を制す”とよく言われます。“入れる学校ではなく入りたい学校”をめざそうという言葉もこの時期にはとても意味のある言葉です。自分は長い人生をどのように生きていくか、そのためにはどういう高校に入ればいいのか、そんな将来の姿を思い描きながら、自身の進路について考えていってほしいものです。受験生諸君、今こそ、スタートの時です！1・2年生のみなさん、受験はもう始まっています！



【『食育』第1弾！ ～第1学年「生活のリズムは朝食から」～】

今年度も文科省より『つながる食育推進事業』の指定をいただき、6月21日(木)の5・6校時にその第1弾となる活動を第1学年において実施しました。第1学年は、“朝食”、第2学年は“運動”、第3学年は“運動と食事のバランス”に注目し、『食育』を通して、望ましい食習慣を形成し、「今」、そして、「未来」のために、「食べる力」、「感謝の心」、「郷土愛」を育てていくことをめざした取り組みです。

この日の授業は、小学校と中学校の給食でのご飯量の違いから始まり、朝食摂取アンケートの結果から自分たちの生活状況の実態等を把握しました。次に、朝食を摂らない理由として、“食欲がない”、“時間がない”の2つが挙げられたため、話し合いを通して、朝食が体に与えるすばらしい効果を、「脳にスイッチ」・「体にスイッチ」・「おなかにスイッチ」という言葉で理解し、一方で、時間がないという人が朝食をきちんと摂れるように、簡単オムレツや味噌玉の実習を行い、試食もちゃんとしました。

三春中学校では、今年度も、ご家庭と一緒に、『食育』を推進し、心身ともに健康な子どもたちの「今」、そして、「未来」のために取り組んでまいりますので、今後も『つながる食育推進事業』の充実にむけ、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。





【『心肺蘇生法・AED講習会』を実施しました！ ～いざというときのための訓練を～】

6月26日（火）・27日（水）・28日（木）の3日間に分け、日本赤十字社郡山支部より3名の講師の先生をお迎えし、3年生、2年生、1年生の順に、全校生徒を対象に実施しました。

ある調査によれば、一般市民が心原性の心肺停止状態に遭遇した24,496人のなかで、心肺蘇生措置をとった人の1ヶ月後の生存率は16.1%、しなかった人は9.2%、同様に、心肺蘇生措置をとった人の1ヶ月後の社会復帰率は11.7%、しなかった人は4.7%だったそうです。また、AEDを使用した1,103人の1ヶ月後の生存率は54.0%、1ヶ月後の社会復帰率は46.1%だったそうです。その調査は、『救急隊到着までの救命措置が生存率・社会復帰率に大きな役割を果たしている』とまとめられていました。

講師の先生によれば、郡山市における救急車の現場到着までの平均時間は約8分で、救急隊に引き継ぐまでの時間の使い方が命を救うというお話でした。“いざというとき”には出会わないことを願いますが、“いざというとき”のために訓練は欠かせませんし、訓練で学んだことが“いざというとき”に生きてきます。和やかな雰囲気の中にも、真剣に訓練に参加する生徒の表情に安心感を覚えました。



【『特別支援教育介助員研修会』本校で実施 ～よりよい子どもたちの成長をめざして～】

6月26日（火）に、本校を会場に、三春町の『特別支援教育介助員研修会』が実施されました。小・中の介助員さん総勢24名が来校し、まずは、授業で中学生の学習ぶりを参観した後、研究協議

会では、小・中学校の各校種における介助の状況や小学校と中学校との違いなどについて情報交換、協議がなされ、小・中学生のよりよい発達、成長のため、真剣かつ積極的な話し合いとなっていました。今後も、三春中学校は、介助員さんと共に特別支援教育の充実をめざしてまいります。

